

# 平成21年度ePHDS委員会活動報告 平成22年度ePHDS委員会活動計画

平成22年6月4日

---

ePHDS(個人健康情報連携システム)委員会  
ePHDS:e**h**anced **P**ersonal **H**ealth  
**D**ocument **S**haring system)

## ePHDS委員会 活動目的

---

- 医療機関間の個人健康情報の統合に関わる標準化の問題を検討する。
- 施設を越えた医療情報の連携、人の一生涯にわたる医療情報の共有のあり方を明らかにし、そのための情報共有基盤やセキュリティ基盤を検討する。
- IHEのモデルを参照しつつ、わが国における医療連携の望ましい姿を探る。
- 標準に関わる問題の解決、特にベンダ単独ではできないテーマへの取り組み、工業会では扱っていないテーマや工業会横断的なテーマを扱う。

# ePHDS委員会 体制

---

## 標準化ワーキンググループ

### **WG1** 個人健康情報連携システムの検討

(主査:安藤 裕(放射線医学総合研究所、喜多 紘一(東京工業大学))

### **WG2** セキュリティインフラの標準化検討

(主査:細羽 実(京都医療科学大学))

### **SWG** 実装検討

(主査:細羽 実(京都医療科学大学))

### **WG3** 医療情報の安全な保管システム (休会中)

(主査:喜多 紘一(東京工業大学))

### **WG4** コンテンツの標準化

#### WG4-1 心電、脳波などの波形の標準化

(主査:平井正明(日本光電))

## スタディグループ

### **SG1** 医療分野の情報化の現状調査 (休会中)

(主査:安藤 裕(放射線医学総合研究所))

### **SG2** 最新医療情報分野の勉強会

(主査:澤田匠(フクダ電子))

## 幹事会

# ePHDS委員会 WG1、WG2

## 平成21年度活動報告

---

**WG1** 個人健康情報連携システムの検討  
(主査:安藤 裕(放射線医学総合研究所、  
喜多 紘一(東京工業大学))

**WG2** セキュリティインフラの標準化検討  
(主査:細羽 実(京都医療科学大学))

**SWG** 実装検討  
(主査:細羽 実(京都医療科学大学))

- IHE統合プロフィールを用いた医療連携システム構築に関する検討(セキュリティ基盤も含めて)(WG1,2)。
- システム普及を目指して、IHEオープンソースの利用方法の検討、コネクタソンに備えた接続試験会の実施 (SWG)
- 活動は、日本IHE協会、ITI委員会XDS-WGとの合同で行った。
- 今年度は、20年度までの活動をまとめ、文書化して普及に資することを目的として、「地域医療連携情報システム構築ハンドブック」を発行した。

# ePHDS委員会 WG1、WG2

## 平成21年度活動報告

---

### 地域医療連携システム構築ハンドブック 2010の発行

#### ○ハンドブックの目的

- ・概要がわかること(なぜIHEかがわかる！)
- ・XAD(地域連携、遠隔画像診断も)のRFPの作成ができる要求仕様になっていること。
- ・テンプレートに従ってRFPが簡便に作成できること。

#### ○対象となる読者

- ・XADを構築・運用する人(発注したいユーザ)向けハンドブックである。
- ・ベンダの営業の勉強にもなるものとする。
- ・病院管理者に対応する。(2章の概要部分)

#### ○読者の知識の前提(下記いずれかの経験、あまりハードルは上げない)

- ・考慮されている法的規制(厚労省、経産省、総務省の「医療情報の安全管理に関するガイドライン」)は目を通してしている。
- ・日本IHE協会主催のワークショップには参加したことがある。
- ・IHE超入門を読んだことがある。
- ・病院情報システムなどの情報システムを導入した経験がある。

# ePHDS委員会 WG1、WG2 平成21年度活動報告

- 要求仕様書(RFP)作成の考え方について
  - ・利用者が必要項目を取捨選択できる文書構成とする
  - ・IHEで定める内容は添付文書(資料編)として、そのまま利用可能にする
- IHEが包含する範囲、限界を明示する
- 本仕様書でカバー範囲、カバーされていない事項、施設ごとに決める事項などを明確に。
- バージョンアップがあることを記載する。最新バージョンを確認してもらう。今回は2010年版とする。

地域医療連携情報システム構築  
ハンドブック 2010

—IHE XDSによるHIE (Health  
Information Exchange) の構築—

2010年3月

ePHDS委員会/日本PACS研究会

日本IHE協会 編



# 地域医療連携情報システム構築ハンドブック

## 目次 1

---

1. はじめに
  - 1.1 このガイドブックの読み方
  - 1.2 IHEの概念
  - 1.3 アメリカやヨーロッパの地域連携システム
  - 1.4 なぜIHE？
  - 1.5 今後の進展
  - 1.6 今後の改訂
  
2. 地域医療連携情報システムの目的と構築の方法
  - 2.1 連携システム
  - 2.2 IHEによる連携システム構築
  - 2.3 IHEプロファイルによりHIEを構築するには
  - 2.4 構築手順と要求仕様
  - 2.5 安全管理ガイドラインとHIE
  - 2.6 IHEのめざすもの

# 地域医療連携情報システム構築ハンドブック

## 目次 2

---

- 3. システム構築の要求仕様
  - 3.1 構築システムの例
  - 3.2 関連する統合プロファイルの機能と利用判断
  - 3.3 XDS関連機能とその要件
  - 3.4 PIX/PDQ関連機能とその要件
  - 3.5 ATNA/CT関連機能とその要件
  - 3.6 コネクタソン
- 4. ネットワーク基盤
  - 4.1 ガイドラインへの対応
  - 4.2 IHEにおけるセキュリティ対策
  - 4.3 個別システムで指定すべき事項
  - 4.4 ネットワークのガイドライン適合性評価(HISPR)



# 地域医療連携情報システム構築ハンドブック

## 目次 3

---

### 5. システムの運用に関すること

- 5.1 システム運用に必要な体制と契約
- 5.2 情報システムの保守管理

### 6. まとめ –XDSの応用範囲の広がりへの期待

- 6.1 地域医療連携適用分野の広がり
- 6.2 地域見守りシステムへの広がり
- 6.3 電子私書箱構想による個人健康情報活用システムへの広がり
- 6.4 院内連携への適用

# 地域医療連携情報システム構築ハンドブック

## 目次 4

---

### 附属書A. 施設間情報連携統合プロファイルXDS 画像連携の場合

- A.1 構築するシステムのユースケース
- A.2 システム構成例
- A.3 システムと利用する統合プロファイル／アクタ
- A.4 仕様書記載ポイント(例)

### 附属書B. XDS概論

- B.1 XDSのアクタとトランザクション
- B.2 XDSにおける処理の流れ
- B.3 メタデータの種類
- B.4 トランザクションの通信方式
- B.5 各アクタの設置形態
- B.6 各アクタが持つべき機能(ソース、リポジトリ、レジストリ、コンシューマ)

# 地域医療連携情報システム構築ハンドブック

## 目次 5

---

### 附属書A. 施設間情報連携統合プロファイルXDS 画像連携の場合

- A.1 構築するシステムのユースケース
- A.2 システム構成例
- A.3 システムと利用する統合プロファイル／アクタ
- A.4 仕様書記載ポイント(例)

### 附属書B. XDS概論

- B.1 XDSのアクタとトランザクション
- B.2 XDSにおける処理の流れ
- B.3 メタデータの種類
- B.4 トランザクションの通信方式
- B.5 各アクタの設置形態
- B.6 各アクタが持つべき機能(ソース、リポジトリ、レジストリ、コンシューマ)

# 地域医療連携情報システム構築ハンドブック

## 目次 6

---

### 附属書C. ATNA, CTなど

- C.1 セキュリティ基盤概要
- C.2 統合プロフィール各論(ATNA,CT)
- C.3 監査証跡の要求仕様書記載のポイント
- C.4 監査ログ関連の仕様書記載例

### 附属書D. ATNAログの例

- D.1 監査証跡ログのユースケース
- D.2 監査証跡ログの出力形式
- D.3 監査証跡ログのスキーマ

# 地域医療連携情報システム構築ハンドブック

## 目次 7

---

### 附属書E. オープンソースの利用方法

E.1 概要

E.2 スキーマファイル

E.3 NIST XDSレジストリ・リポジトリ (ダウンロード、インストール)

E.4 XDSツールキット (ダウンロード、インストール)

E.5 他のオープンソース (OpenHealthTools、CodePlex、Omar)

### 附属書F. IHEポリシーTEMPLATEなど

F.1 医療連携コミュニティの構築

F.2 IHE IT INFRASTRUCTURE TECHNICAL FRAMEWORK

### 附属書G. 提案依頼事項について

# ePHDS委員会 WG1、WG2、SWG

## 平成22年度活動計画

---

- WG1** 個人健康情報連携システムの検討  
(主査:安藤 裕(放射線医学総合研究所、  
喜多 紘一(東京工業大学))
- WG2** セキュリティインフラの標準化検討  
(主査:細羽 実(京都医療科学大学))
- SWG** 実装検討  
(主査:細羽 実(京都医療科学大学))

- 地域医療情報システム構築ハンドブックの改訂
  - ユーザ側、ベンダ側の要望などに沿って
- PHRの検討
- ASP,SaaSの検討

# ePHDS委員会 WG4-1

## 平成21年度 活動報告

---

### WG4 コンテンツの標準化

WG4-1 心電、脳波などの波形の標準化  
(主査:平井正明(日本光電))

- 負荷心電図(Part 3.3)の規格の完成
  
- 以下の規格のNWIPを提出した
  - ISO/TR 11073-92205 CDAを用いた生理検査報告書
  - ISO/TR 11073-92206 SCP-ECGからMFERの変換
  - ISO/TS 11073-92301 標準12誘導心電図
  - ISO/TS 11073-92302 長時間心電図

# ePHDS委員会 WG4

## 平成22年度 活動計画

---

### WG4 コンテンツの標準化

WG4-1 心電、脳波などの波形の標準化  
(主査: 平井正明(日本光電))

- 以下の標準をISO化に向けて作業する
  - ISO/TR 11073-92205 CDAを用いた生理検査報告書
  - ISO/TR 11073-92206 SCP-ECGからMFERの変換
  - ISO/TS 11073-92301 標準12誘導心電図
  - ISO/TS 11073-92302 長時間心電図
- ISO/TS 11073-92001のIS化に向け準備を進める

# ePHDS委員会 SG2

## 平成21年度 活動報告

---

### SG2 最新医療情報分野の勉強会

(主査:澤田 匠(フクダ電子))

健康医療分野における最近のトピックスを取り上げ、下記の勉強会を開催した。

テーマ:「医療におけるASP・SaaSの活用」

— 民間事業者による外部保存を踏まえて —

日 時: 2010年2月19日(金) 13:30-17:00

場 所: フクダ電子(株)

参加者: 51名(会員13名、病院・大学14名、非会員23名)

※日本医療情報学会 医療情報技師ポイント対象

# ePHDS委員会 SG2

## 勉強会「医療におけるASP・SaaSの活用」

No	タイトル	講師
1	ASP・SaaS関連ガイドラインの解説	日本医師会総合政策研究機構／矢野 一博
2	ASP・SaaSの事例紹介 ① SaaS型ME機器管理システム ② 医療・福祉分野でのASP・SaaSの普及促進について ③ P2P通信による遠隔画像診断システム実現例「医知悟」について	①(財)医療情報システムセンター／魚井 貴裕 ②ASPIC医療・福祉研究会リーダー／富井 茂 ③テクマトリックス(株)／ 依田 佳久
3	ASP・SaaSに対するユーザー側の期待	ひがしやま病院／岡崎 宣夫
4	HISPRO ( Health Information Security Performance Rating Organization) の紹介	保健医療福祉情報安全管理適合性評価協会(HISPRO) 理事長／喜多 紘一

# ePHDS委員会 SG2

## 平成22年度 活動計画

---

### SG2 最新医療情報分野の勉強会

(主査: 澤田匠(フクダ電子))

健康医療分野に活用できるITインフラやセキュリティの技術や動向に関して、タイムリーなトピックスを選定し、年2回を目標に勉強会開催の計画を立てる。また前年度に引き続き、勉強会参加者に日本医療情報学会の医療情報技師ポイントを付与する申請をおこなう。



# ePHDS委員会 幹事会 平成22年度 活動計画

---

委員会全体の調整

新規テーマの検討

- Firewallの問題検討（病院情報システムとインターネット）
- PHRビジネスの可能性